

教科名	英 語
-----	-----

○現状分析（生徒の学習状況についての実態および定期考査等を含む学力調査の結果等を踏まえた内容別・観点別の分析表）

学習状況の実態	内容別・観点別結果の分析
<p><聞くこと> ALT のスピーチ、教科書の CD 教材、リスニング用の副教材等によるリスニングも行っている。聞き取ったの応答や CD 教材におけるテストへ取り組む姿勢はとてもよい。</p> <p><話すこと> コミュニケーション活動に意欲的に取り組む生徒が多い。ある一定の文型を使って「話す」ことを中心に学習を行っている。反復練習の後、ペア・グループと話す相手を段階的に広げていく工夫をしている。自信をもって、積極的に話しかけていく姿勢が見られる。</p> <p><読むこと> 教科書の音読練習を繰り返し行い、速度や発音に気を付けながら身に付けさせている。繰り返しの音読練習によって、大まかな内容理解にも結びつけている。長文の読解になると、途中で読むことをあきらめてしまう生徒もいる。</p> <p><書くこと> 書くことに関しても、抵抗感を感じる生徒が少ない。ただし、語彙力が乏しい。また正確に文章を書く能力が低い。文の構成に関する基礎知識が身に付いていない部分がある。 ノートへの書写、板書の書写、文法的な文の書き替え、単語の書き取り、スキット作り、スピーチ原稿作り、日記作成等を行っている。</p>	<p><聞くこと> Q&A、TorF、リスニング用の CD 教材への正答率や応答の正確さは比較的よくできている。ただし、まとまった英文を聞いた後の応答では理解が不十分な生徒がいる。最後まで、しっかり聞き取らず、ひとつの情報だけを聞き取り、誤答するケースが目立っている。</p> <p><話すこと> 話すことへの興味があり、積極的にコミュニケーション活動に取り組む生徒は多い。相づちを打ったり、感想を述べたり、突然の質問に対してはうまく対応しきれず言葉に詰まる生徒もいる。ALT とのスピーキングテストを実施し、概ね結果は良好であった。 しかし Q&A はできるが、自己表現を促されると応答できない生徒がいる。</p> <p><読むこと> 読む回数が増えれば、流暢になり、リズムや抑揚も上達していく。読解力の面では単語の知識力の有無が内容の理解度に反映している。学力調査の結果から、まとまった英文を読み解く力が全体的に劣っている。 読むことに関しては、ALT とのリーディングテストを実施し、概ね結果は良好であった。</p> <p><書くこと> テーマを設定し、3~4 文の自己表現を英文で書くことはできる。しかし、基本的な文法的知識（人称・単数複数・時制等）に欠ける面が学力調査や定期考査の結果から読み取れた。そのため正確性に欠けてしまうところが見られる。文の書き替えの知識でも文法的な誤りが見られる</p>

(書式3)

指導方法の課題分析と授業改善策

教科名	英 語	教科主任	東 條 貴 史
-----	-----	------	---------

1. 指導方法の課題と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

<第1学年>

指導方法の課題の分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
<ul style="list-style-type: none">・英語に対して興味関心が高い生徒が多く、初歩的な英語を使って聞いたり話したりする活動に積極的に取り組む事ができる。・辞書指導を早い段階から取り入れたことにより、自主的に調べようとする姿勢が見られる。・まとまりのある英文を聞いたり読んだりして、内容を大まかに理解する指導の必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・教科書の本文を扱う際に場面や登場人物の気持ち、行動の理由などを考えさせる。・文字からではなく音から導入をする。・基本語彙や表現の定着を図る小テストや確認テストを定期的に行う。・実践的な英語の習得と、既習事項の定着を図るため教科書アレンジやスキットを作り、発表させる。・全体的な学力底上げのため、グループによる共同学習をする。	<ul style="list-style-type: none">・夏季補充教室を5日間行う。・ALTとのスピーキングテストを学期に1階は行い、英語を使ったコミュニケーションへの意識を高め、実践経験を積ませる。・負荷になりすぎない程度に家庭学習を提示し、繰り返し学習をさせる。

<第2学年>

指導方法の課題の分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
<ul style="list-style-type: none">・英語を聞いたり話したりすることについては興味をもって取り組むことができる。・辞書を活用した語彙や文化に関する指導や読解では分からない語や表現があると先に進めなくなり、自分で調べようとする力が不足している。・推測しながら読んだり聞いたりする指導を重ねることで、まとまりのある英語を理解する力を付ける必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・教科書本文を扱う際に、場面や人物の気持ちに焦点をあてた発問を行う。・副教材を用いたリスニングでまとまりのある英語を導入し、音読を繰り返すことで定着を図る。・基本語彙と基本文に関する課題を与え、その定着を図る。・グループを活用した説明活動で文法を理解・定着させる。	<ul style="list-style-type: none">・夏季補充教室を実施し、学習事項の復習の機会を設ける。・ペアワークやALTとの1対1のスピーキングテストを行い、英語を使ったコミュニケーションへの意欲を高める。・ノートづくりを行い、教科書本文を繰り返し復習する時間を確保する。

<第3学年>

指導方法の課題の分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
<ul style="list-style-type: none">・英語を使ってのコミュニケーション活動に対して意欲的に取り組む姿勢がある。・ALTと積極的に関わろうとする生徒が多い。・英語を書いたり、発表をするという表現活動に慣れて力も付いてきている。・既習の基本的文法の知識や語彙力が身に付いていない生徒が多い。	<ul style="list-style-type: none">・既習の文法的知識のドリル的な練習の繰り返し、定着を図る。・正確に英文が書けるよう文法的指導を徹底し定着を図る。・英問英答を繰り返し授業中に行い、口頭練習も通して基本の習得を図る。・グループ活動、ペア活動を通してコミュニケーション力を高める。・小テストを実施し、語彙力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none">・夏季補充教室を5日間実施し、既習事項を段階に分けて復習する。・英語での活動を増やし、生徒が能動的に活動できる機会を増やす。・ALTとの授業も少人数で行い、スピーキングテストやプレゼンテーション、スキット作りを補充または発展として計画的に指導していく。